

第八回 復曲試演の会

復曲能宮城野

片山伸吾

春日龍神

龍女之舞

井上裕久

令和7年6月15日(日)

午後1時開演

於/京都観世会館

主催/公益社団法人

京都観世会

— 月は露
つゆは草葉に宿かりて —

重由子



第八回 復曲試演の会

令和7年6月15日(日)
午後1時開演(午後0時開場)
於/京都観世会館



助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人 日本芸術文化振興会



★許可のない撮影はお断り申し上げます。
★通話のみならず、上演中の着信音やバイプレーターは演能の妨げになりますので、必ず着席時にOFFにして頂きますよう、お願い申し上げます。
★客席における飲食は禁止です。

プログラム

13:00 講演 「月は露 つゆは草葉に宿かりて」
西野 春雄(法政大学名誉教授)

13:30 復曲能 宮城野

前シテ/少年 片山 伸吾
後シテ/宮千代の霊 宝生 欣哉
ワキ/徹翁上人 茂山 忠三郎
アイ/旅人

笛 竹市 学 地謡 河村 晴道
小鼓 大倉源次郎 吉浪 壽晃
大鼓 河村 大 味方 玄
太鼓 前川 光長 田茂井 廣道
深野 貴彦
橋本 忠樹
宮本 茂樹
後見 片山九郎右衛門 河村 和貴
青木 道喜 大江 広祐
梅田 嘉宏 河村 浩太郎

休憩20分

仕舞 田村 キリ 大江 泰正
野宮 ののみや 片山九郎右衛門
玉鬘 たまかざら 松井 美樹
松虫 キリ 浦田 保親

地謡 越賀 隆之
分林 道治
味方 團
谷 弘之助

休憩10分

16:00 能 春日龍神 龍女之舞

前シテ/宮守の老人 井上 裕久
後シテ/龍神 樹下 千慧
前ツレ/宮守 松野 浩行
後ツレ/龍女 橋本 光史
後ツレ/龍女 福王 知登
ワキ/明患上人 喜多 雅人
ワキツレ/同行の僧 佐々木 秀

笛 森田 保美 地謡 杉浦 豊彦
小鼓 吉阪 一郎 古橋 正邦
大鼓 河村 凍太郎 河村 博重
太鼓 前川 光範 河村 晴久
浦部 幸裕
吉田 篤史
後見 浦田 保浩 鷲尾 世志子
橋本 擴三郎 河村 和晃
大江 信行 寺澤 拓海
浅井 風矢

あらすじ

宮城野 都北山辺に住む僧徹翁は、東國の名所旧跡を訪ねる旅に出て、陸奥宮城野(現宮城県仙台回り)に着く。折から秋萩の盛り。中にも和歌に詠まれた下疎の萩(もとあらのはぎ)であろうかと思いつつ人を待っていると、少年が現れ、それは一般の萩であり、水のほりに色濃く僅かに咲いているのが下疎の萩であると教える。そして僧を伴い宮城野を案内し、更に宮千代の塚へ連れてゆく。少年は僧の問いに答え、宮千代のことを語る。――昔、宮千代という少年は、この野の萩を愛し、昼夜を分かず遊んでいた。ある夜萩の露に宿る月影に感じ入り、和歌を詠んだ。しかし下の句がどうしても調わず、嘆いて亡くなってしまった。その執心が残り、今も夜な夜な宮千代の塚のほとりで、和歌を吟ずる声がある。――僧は憐れに思い、その上の句を教えてもらえば、下の句を継ぎ、宮千代の手向けになそうと言うと、少年は喜んで「月は露 つゆは草葉に宿かりて」と詠み、僧は「憂き世の旅を 宮城野の萩」と継ぐ。御法を得たと喜ぶ少年の名を僧が問うと、自分こそ宮千代の幽霊と名乗り塚に消える。そこへ陸中辺りの男が萩見物に宮城野にやって来て、僧に出会う。僧は男より更に宮千代のことを聞き、通夜をして弔う由を告げ、男は旅を続ける。やがて僧が弔うと、宮千代の霊が塚より現れ、宮城野の萩を愛で、萩を詠んだ和歌を運んでゆく。そして今、僧の弔いを受けて迷いの雲も晴れたことを喜び、名残を惜しんで舞を舞う。やがて夜が明けるとともに宮千代の姿は消え、あとには白露ばかりが残っていた。『宮城野』には、金春禅竹作の曲や、その可能性のある曲の言葉や手法が数多く取り入れられている。『雲林院』『小塩』『杜若』『女郎花』『雨月』『定家』『煥捨』など。作者は禅竹に強く傾倒している可能性がある。そして全体の曲調からは『松虫』が想起される。和歌を愛し、都に憧れた宮千代と、都に憧れた都の徹翁が和歌の縁で結ばれ、萩を愛し、露と消えた宮千代がまた、和歌によって萩と結ばれる構図が、儚くも美しい一曲である。

春日龍神 龍女之舞

柵の尾の明患上人は、釈迦の仏跡を訪ねる修行のために入唐渡天(大陸に渡ること)を志し、春日明神に眼乞いに出向く。社参の上人を二人の神官が迎え、入唐渡天を思い止まるようにという、明神の神託を伝える。即ち、明神がいかに上人を頼りにしておられるかということや、釈迦入滅後は仏跡を尋ねる意味はさほどなく、今は春日こそが仏跡に値すると説く。そして上人が入唐渡天を思い止まれば、三笠山に五天竺を移し、釈迦の一代記を目前に見せようと約束し、実は自分たちは、鹿島よりこの大和へ明神が移られた時にお供した、時風秀行であると明かして消える。やがて辺りは金色の世界となり、龍女たちが現れて舞を舞うと、今度は大地が震動し、八大龍王が数知れない眷属を引き連れて現れ、釈迦の大会(説法の場)に参会する。そして上人が入唐渡天を止まらざることを確認し、猿沢の池へ帰って行く。奈良のおどかな気と、春日の光に満ちた祝言曲。「龍女之舞」の小書(特殊演出)では、間狂言がなくなることがあり、常に登場しない前ツレの神官と、後ツレの龍女が出る。謡の順序も一部変わる。後シテは大龍戴を戴き、より壮大な世界観を見せる。

入場料

S席(正面指定) 8,000円
A席(脇・中正面指定) 6,000円
B席(二階一列目指定) 5,000円
C席(二階自由) 3,000円

4月15日(火)
10:00
発売開始



チケットはお電話・インターネットにてお申し込み頂けます

会場・御予約

京都観世会館 tel.075-771-6114
京都市左京区円勝寺町44

- ◆地下鉄◆
京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車 ①出口より徒歩5分
- ◆京都市バス◆
JR京都駅⇒
5系統「岡崎公園・美術館・平安神宮前」下車 徒歩3分
86・206系統「東山仁王門」下車 徒歩5分
四条河原町⇒
31・46・201・203系統「東山仁王門」下車 徒歩5分
- ◆自家用車◆
京都観世会館東隣の有料駐車場、又は岡崎公園市営地下駐車場等をご利用ください。



監修・校訂・補綴 西野 春雄
企画・監修 片山九郎右衛門
創出・節付・型付 [京都観世会復曲委員]
片山 伸吾 河村 晴道 吉浪 壽晃
橋本 忠樹 宮本 茂樹 梅田 嘉宏 河村 浩太郎
制作協力 宝生 欣哉 茂山 忠三郎
竹市 学 大倉源次郎 河村 大 前川 光長
表紙 定家 亜由子
制作・主催 公益社団法人 京都観世会 www.kyoto-kanze.jp

17:10頃 終了予定